

## こうこう 恍惚の人～認知症は初期の対応が肝心です～

院長(脳神経外科医師)

すぎやまさとる  
杉山聰

4月から、市民病院の院長を拝命しました杉山聰と申します。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

どうも最近物忘れがひどくなつたなあ。あれ、あの人先日会ってあいさつしたけど、名前なんていひたっけ？えつ、もしかして私、認知症かな…。

人は年をとると共にあらゆる機能が衰えます。このような現象が年相応の衰えなのか、あるいは認知症の症状なのか、そのどちらかでその後の対応が大きく変わります。

2か月ほど前から物忘れがひどく、気分も沈みがちになった。昼と夜が逆転し、夜中に家の中を歩き回る。ボーッとしてテレビに向かい、よく笑い涙をこぼすが番組の内容を聞くと覚えていない。買い物をして釣り銭をもらわずに帰ってきた。なぜお釣りがないのと聞くと店員が財布からお金を取ったと訴える。近ごろ、外出したら自分の家がどこか分からず警察の厄介

になった…などなど。

これらは認知症が進んだ人によくみられる症状ですが、このような状況になる前に、ご家族は何か気付いているのではないかでしょうか。

例えば、同じ事を何度も繰り返し言う、食事したことを忘れる、怒りっぽくなつた、作業をやりかけたまま忘れてしまう、こんな症状があつたら認知症の初期症状かもしれません。

治療で治せる認知症もありますが、基本的には認知症の治療は困難です。放置すれば症状が進行し「恍惚の人」となってしまいます。しかし、早期に認知症を見つけ、適切な対応をとれば症状の進行を遅らせることができます。

年齢を重ねた事による単なる脳の機能低下なのか、それとも認知症の初期なのかを適切に判断し治療に繋げることが大切です。気になる人は、医療機関への受診をお勧めします。

※「恍惚の人」…認知症をいち早く扱った1970年代初期の文学小説